

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2779101803
法人名	株式会社 カームネスライフ
事業所名	グループホーム ここから加島
訪問調査日	平成 21 年 9 月 2 日
評価確定日	平成 21 年 9 月 18 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2009年9月7日

【評価実施概要】

事業所番号	2779101803
法人名	株式会社 カームネスライフ
事業所名	グループホーム ここから加島
所在地	大阪府大阪市淀川区加島4丁目17番29号 (電話) 06-6305-1231

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年9月2日	評価確定日	平成21年9月18日

【情報提供票より】(21年7月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての	2階 ~	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有() 円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,700 円	

(4) 利用者の概要(7月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	68 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ファミリークリニックなごみ、西淀病院、吉村歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体の株式会社カームネスライフは平成15年6月設立され介護関連事業を幅広く展開している。平成18年3月同時に3ヶ所のグループホーム(柏原、百舌鳥、加島)を開設した。JR東西線加島駅から徒歩10分、古い建物と新築のマンションや企業ビルが混在する地域にあり、新築3階建てで1階にデイサービスを併設している。館長(管理者)は看護師で有料老人ホームに勤務後開設に係わり、ゆったり寄り添う介護の経験を随所に活かされ、家族には信頼と安心感がある。殆どが常勤職員で外部研修や資格取得研修の受講で、受講料、交通費、勤務調整などの支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題は1点、運営推進会議を活かした取り組みで、地域に開かれたホームとして、運営推進会議に区介護保険課や民生委員の出席を求められたので、引き続いて参加を要請している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者、ケアマネジャー、各ユニットリーダーで話し合い、管理者が取り纏めた。評価はあくまでも自己評価が中心でありその意義を理解して、全職員が参加して取り組むことが望まれる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域包括支援センター、社会福祉協議会、自治会長、家族が参加して2ヶ月に1回開催している。多彩な議題で活発な意見交換が行われ議事録を作成して、家族に郵送している。職員も閲覧して内容を共有して業務に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議や年2回の家族会、家族が多数参加する行事で意見や要望を聞いて記録して、職員会議で話し合い運営に反映させている。ホームたよりや手書きの利用者の状態報告と写真を送っている。利用者の居室には家族宛の連絡ノートを置いている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入して、自治会の役員会に出席した機会に、地域認知症高齢者介護の拠点として理解を得よう努めた。町会の掲示板にホームの行事案内を貼らせて貰っている。町会の夏祭りに参加したり、神社に奉納をしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人と人との暖かいふれあいの心を大切に、日々の福祉サービスに努め、入居者や地域の方々と共に、よりよい地域福祉の実現に寄与する。」をホーム独自の理念とし、地域密着型サービスを標榜している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、各ユニット入口にある掲示板に表示し、毎日朝礼で唱和して全職員で共有し、意識しながら業務に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、自治会役員会に出席した機会に、地域の認知症高齢者介護の拠点として理解を得よう努めた。町会の掲示板に行事案内を貼らせて貰っている。町会の夏祭りの参加や神社への奉納を行っている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者、ケアマネージャー、各ユニットリーダーで話し合い、管理者が取り纏めた。自己評価を活かして業務を見直し改善に繋げている。全職員が参加して自己評価を実施する体制がない。	○	評価はあくまでも自己評価が中心であり、その意義を正しく理解して、ケアの現実を知る職員を中心にして、全職員が参加した自己評価の取り組みが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、社会福祉協議会、自治会長、複数の家族が参加して2ヶ月に1回開催している。多彩な議題で活発な意見交換が行われ、議事録を作成して家族に郵送している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、介護保険申請代行、後見人制度利用などで頻繁に区担当者や地域包括支援センターを訪れて報告や相談をして連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームたより「ここから加島」や運営推進会議議事録、手書きした利用者別の報告と写真などを送っている。来訪した家族には積極的に話しかけ、事務所カウンターに利用者別のアルバムを置き、大学ノート連絡帳を居室に備えるなど、個々に合わせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や年2回の家族会、家族が多数参加する行事の時に意見や要望を聞いて記録し、職員会議で話し合い運営に反映させている。来訪の少ない家族には電話で報告して意見を貰っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員との意見交換の機会をつくり相談や要望に柔軟に対応し職員の離職を最小限に抑える努力をしている。状況により人員配置を変更して利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。現在殆どが常勤者で離職はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、法人の近隣グループホームと合同の内部研修を実施している。外部研修は、介護技術関連の講座や資格取得講座などを受講する職員に積極的に交通費、受講料、勤務調整などで支援をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2～3ヶ月に1回開催される区グループホーム連絡会に参加して、情報交換や勉強会でサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族が希望する場所に何度も出向いて利用者の状態や要望を聞いて、同法人内のデイサービスを利用したりホームを見学して貰うなどして、相談しながら納得してサービスを利用するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々一緒に過ごすなかで利用者の出来ることで手伝って貰いながら感謝の言葉をかけ、和やかな雰囲気で家族のように支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から以前の暮らし方の情報を得て、毎日の健康状態の記録と合わせて全職員が情報を共有し、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は職員会議で本人本位になるように検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートや利用者や家族からの課題や要望を聞いて、サービス担当者会議で検討して介護計画を作成し、家族に説明し確認して貰っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回ケアカンファレンスを行い、利用者や家族と話し合い医師の意見も取り入れた介護計画を作成している。期間に拘らず状態の変化に即応して見直し、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や利用者の希望する外出先(買物、以前住んでいた家)への送迎などで、出来る限り柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族や利用者と一緒に相談して協力医療機関をかかりつけ医として往診して貰っている。利用者の以前からの医療機関の継続受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「看取りの指針」について説明し確認を貰っている。「重度化」のガイドラインを定めて、病状の変化に応じて家族、医師、職員で話し合い、「重度化した場合における対応に係る指針」により方針を共有し同意を得るようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議でプライバシーの保護について心がけるように注意し合っている。利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応や声かけについて周知徹底している。個人情報情報は厳重に戸棚に保管し慎重に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケア記録を全職員が把握し、利用者の健康状態とその人らしいペースで、希望を聞きながら気持ちよく過せるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
	22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
	23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
	24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		
	25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		
(4) 安心と安全を支える支援					
	26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		
	27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者の管理栄養士の献立による食材で調理している。食事や水分の摂取量を確認して記録し、食事の形態、水分にとろみをつけるなどして、利用者の状態に合わせた支援をして、健康管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入口は草花を植えて入り易い。全館バリアフリーで食堂兼居間はゆったりと広く板張りのベランダに面していて明るい。テレビを見る位置にコの字型にソファを置いて寛げる。廊下の壁に額縁入りの絵を飾り、作り付けの腰掛がある。2階入口正面の事務所に花が生けてあり、壁に利用者の絵手紙作品を飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は花の名前をつけた部屋の表示があり、利用者は使い慣れた家具を持ち込み、写真や小物を飾り居心地よく過ごせる工夫をしている。		